

法人の概要

住 所	〒160-0022 東京都新宿区1丁目13番12号 中立ビル2F TEL 03-5368-5994
主たる活動分野	子供の健全育成を図る活動
活動分野	保健、医療又は福祉の増進を図る活動 社会教育の推進を図る活動 まちづくりの推進を図る活動 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 環境の保全を図る活動 国際協力の活動 子供の健全育成を図る活動 全各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
代表者・役職名	会長 橋本 明
事務局責任者氏名	事務局長 多久島 俊昭
財政規模	1億円以上
活動開始時期	1996年5月
法人認定年月日	2001年4月12日
所轄庁	東京都
活動開始の経緯	次世代を担う子供たちが健やかに成長できるよう支援する仕組みを社会全体が構築し取り組むことが必要と考え環境保護、青少年の健全育成、国際交流を基本理念とし、任意団体として活動をスタート。2001年にNPO法人を設立。
目 的	この法人は、青少年に対して、スポーツを通じた国際交流および環境教育に関する事業を行い、健全育成からあたたかい心の日本人づくり、国際人づくりに寄与することを目的とする。
主な事業内容	(1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動 (2) 社会教育の推進を図る活動 (3) まちづくりの推進を図る活動 (4) 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 (5) 環境の保全を図る活動 (6) 国際協力の活動 (7) 子供の健全育成を図る活動 (8) 全各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
備考	

1. 健康日本21とはどのようなものか、ご存知のことをお答えください。

知らない

2. 健康増進法とはどのようなものか、ご存知のことをお答え下さい。

病気にならないために、予防をするための健康活動。

3. 8020運動とはどのようなものか、ご存知のことをお答え下さい。

80歳で自分の歯を20本残そうという運動。

4. 健康作りに関する活動を行ったことがありますか。

スポーツを通して子供の健全育成などの活動を行っている。これは直接的ではないが、広い意味での健康作り活動の一環といえる。

5. 住民参加による健康作りに参加してみたいですか。

健康づくりの内容による。具体的な内容がわからないので何とも言えないが、当NPOの主旨と合えば参加してもよい。

6. 地域活動を行っていますか。

事務所のある所を拠点とした地域活動はしていない。サッカー場の芝生の手入れや川の清掃、J1のサッカー選手を招いてのサッカー教室などを行っているが、地域を限った活動ではない。

7. 住民参加型の地域保健活動を推進する要素は何だと思えますか。

医者や地元で活動している保健関係者（看護師など）が中心となって活動すること。

8. 住民参加型の地域保健活動を阻害する要因は何だと思えますか。

縦割り行政が障害になっているのではないだろうか。例えば高齢者・障害者のためのデイサービスとケアサービスとの窓口が異なる。手間が一度で済めば活動もしやすくなる。そのように、地域保健活動についても、行政の担当窓口の違いや関係のなさなどが障害になっているのであろう。

9. 理想的な住民参加型の地域保健活動とはどのようなものと思われますか。

地域住民と地元の保健関係者や医者との連携して進めていくこと。高齢者相手ではなく、若い人を対象に進めること。

10. 住民参加型の地域保健活動のマイナス面はどのようなものと思われますか。

素人が中心になって行っていること。

11. どうしたら地域保健活動に住民の参加を得ることができると思えますか。

地域活動をしていく場合、すぐに活動は広がっていかない。地道な活動を徐々に行い、ボランティアなどを増やしていかなければ、住民が参加することはできないだろう。

12. NPO活動を継続、発展させていくうえで、必要と思われること何か。あるいは障害（課題）は何か。

当NPOは、スポーツを通して活動しており、2001年に五大陸親善チャレンジカップとしたサッカー大会を開いた。そのような活動を支えてくれる寄付金や資金のサポートが足りない。

13. 行政との連携（あるいは行政からの支援）の経験があるか。それはどのようなものか。

「2001年に五大陸親善チャレンジカップとしたサッカー大会」のプロジェクトの実現にあたり、総務省、外務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省、東京都、東京都教育委員会、千葉県、千葉県教育委員会、埼玉県教育委員会、各区市町村教育委員会、社会福祉協議会、経済団体連合会、日本労働組合総連合会東京都連合会・東京商工会議所・日本サッカー協会・東京都サッカー協会・千葉県サッカー協会・埼玉県サッカー協会などの支援を受けた。

14. どのような形の連携（あるいは支援）があれば良いと思うか。

活動資金の援助

15. 専門家との連携（あるいは行政からの支援）の経験があるか。それはどのようなものか。

どのような形の連携（あるいは支援）があれば良いと思うか。

サッカーを中心に活動しているので、松木安太郎氏をスーパーバイザーとして提携している。

16. 医師、歯科医師、保健師等の保健医療専門家と活動した経験があるか。

それはどのような関わりであったか。

ない。これから健康について活動を行っていこうと考えている。

17. NPOとして健康づくりに参加するとして、それを円滑に進めるために必要なものは何か。（制度、情報等）
（+行政、専門家団体 それぞれに望むこと）

税制の改正である。NPOとして活動しても事業収益については税金を払わなければいけない。活動するための税負担を無くして欲しい。必要なだけの寄付金は集まらない。日本人にはそのような意識が低い。

厚生労働科学研究補助金（健康総合研究事業）
分担研究報告書

岩手県某町における住民参加に関する意識調査
分担研究者 米満正美（岩手医科大学歯学部予防歯科学教授）

研究要旨：岩手県内の一つの町における成人の社会活動の実態と意識を明らかにし、ボランティア活動を含む地域における住民参加の可能性を探ることを目的に、郵送法による「社会活動についての意識調査」を実施した。住民参加による地域保健活動を推進する担い手として期待されるのは、一般的な社会活動の参加経験が豊富で参加意欲も高い人であり、意識の面では「ボランティア活動に参加することは自らのためにも有益である」と考え、「発病は自らの健康管理と関係する」と考えている人であると推測された。また、そのような人は余暇には読書や社会活動、スポーツを行っていることが示された。年代別にみると、退職年齢を過ぎてボランティア活動に参加するための時間調節の困難性が低下した 60 歳代が「生きがい」としてボランティア活動の場を考えている傾向にあることが示された。

A. 研究目的

2000 年に 21 世紀の国民健康づくり運動として「健康日本 21」が提唱され、2002 年には健康増進法が制定された。その骨子は、生活習慣病の予防、第一次予防の重視、多様な組織間の有機的な連携による保健活動の推進であり、ヘルスプロモーションの概念に則り地域ぐるみで取りかかる必要がある。そしてその成果を最も左右するものとして保健活動への住民参加という視点は不可欠である。

この調査研究の目的は、T 町成人の社会活動の実態と意識を明らかにし、ボランティア活動を含む地域における住民参加の可能性を探ることである。

B. 方法

2003 年 1 月、岩手県 T 町の住民基本台帳を基に年齢 20 歳から 75 歳までの住民から

無作為に抽出した 1000 名を対象に、郵送法による「社会活動についての意識調査」を実施した。質問紙は資料 1 に示したように、「性別」、「年齢」、「余暇活動」、「社会活動への参加状況」、「ボランティア活動に関する意識」、「セルフケア」、「歯科保健事業についての意識」に関する 17 項目の質問からなっている。「余暇活動」に関しては 12 種類（その他を含む）の活動の中から該当するものをすべて選択させた。その他の質問項目に関しては五段階の順位尺度であらわした回答肢を設け、その中から最も適当なものを選択させた。回答は、Pearson の相関係数、t-検定、一元配置分散分析を用いて分析した。統計解析用ソフトウェアには SPSS 11.0J for Windows (SPSS 株式会社製) を用いた。

C. 結果および考察

(1) 分析対象者

質問紙を郵送した 1000 名のうち、回答が得られたのは 574 名（男性：275 名、女性：294 名、不明：5 名）であり、回収率は 57.4% であった。質問紙回答者（以下対象者）の性別、年齢階級別の内訳は図 1 に示したとおりである。

(2) 社会活動への参加状況

社会活動として調査の対象としたのは「町内会」、「趣味の講習会やグループ、サークル活動」、「道路や公園の草取りや清掃」、「PTA の集まりや活動」、「老人や障害者の援助ボランティア」、「歯磨きボランティア」の 6 項目である。各活動への参加者（参加経験者を含む）は、それぞれ、274 名（63.5%）、97 名（27.4%）、228 名（58.0%）、121 名（39.3%）、31 名（9.5%）、10 名（3.2%）であった。

性別、年齢階級によって社会活動の参加状況が異なるか否かを t-検定、一元配置分散分析によって分析した。その結果、性別によって差が認められたのは「サークル」（ $p=0.048$ ）、「PTA」（ $p=0.000$ ）、「歯磨きボランティア」（ $p=0.000$ ）の 3 項目であり、女性において参加経験が多かった。

年齢階級によって差が認められたのは、「町内会」（ $p=0.000$ ）、「道路掃除」（ $p=0.000$ ）、「PTA」（ $p=0.000$ ）、「歯磨きボランティア」（ $p=0.006$ ）の 4 項目であった。それぞれの項目に関して年代間の差の分析を行った結果、「町内会」、「道路掃除」に関しては 20 歳代で経験や意欲が低く、60 歳代で高い傾向にあった。また、「PTA」に関しては 40 歳代が他の年代と比較して高い傾向にあった。「歯磨きボランティア」に関しては 70 歳代が他のすべての年代と比較して低い傾向に

あった。

(3) ボランティア活動に関する意識

「ボランティア活動に参加することは人生をより豊かにする」、「ボランティア活動に参加することは大事だ」、「ボランティア活動は暇な人だけがやればよい」、「ボランティア活動に参加するために仕事や家事・育児を調整するのは難しい」の 4 項目に関して性別、年齢階級によって差があるか否かを分析した。その結果、性別に関して差が認められた項目はなかった。年齢階級に関しては「人生をより豊かにする」、「参加することは大事だ」、「仕事や家事・育児を調整するのは難しい」の 3 項目に差が認められた。「人生をより豊かにする」（ $p=0.002$ ）では、60 歳代が 20 歳代を除く他の年代と比較してより強く感じている傾向にあった。「参加することは大事だ」（ $p=0.002$ ）では、60 歳代、70 歳代がそれぞれ 20 歳代から 50 歳代の 4 年代と比較して重要性を強く感じている傾向にあった。「仕事や家事・育児を調整するのは難しい」（ $p=0.000$ ）では、20 歳代と 30 歳代間、40 歳代と 50 歳代間、60 歳代と 70 歳代間で差が認められなかった他はすべての年代間で差が認められ、時間調整することを 30 歳代が最も難しいと感じている傾向にあることが示された。

(4) セルフケア

「病気は自分自身で気をつけることによって予防できる」、「人が病気になるのは、それまでの生活の仕方や健康管理に問題があったからである」の 2 項目に関して性別によって意識に差があるか否かを分析した。その結果、「健康管理」に関して男性のほうがより強く感じている傾向が認められた

($p=0.016$)。

年代別の分析では 2 項目ともに差が認められた。「予防」($p=0.000$)に関しては、60 歳代、70 歳代がそれぞれ他の年代と比較してセルフケアによる予防の有効性を強く感じている傾向にあった。「健康管理」($p=0.013$)に関しては、20 歳代が 50 歳代、60 歳代、70 歳代と比較して発病と健康管理の関連性を実感していない傾向が示された。30 歳代と 40 歳代には 60 歳代、70 歳代との間にそれぞれ同様の傾向が認められた。

(5) 歯科保健事業に関する意識

「歯科保健事業に参加したい」、「歯科保健事業の企画および運営にボランティアとして参加したい」の 2 項目について分析した。その結果、性別の分析では 2 項目ともに差が認められなかった。年齢階級別の分析では「歯科保健事業の参加」($p=0.000$)で差が認められ、60 歳代が他の年代と比較して最も強く参加を希望し、逆に 20 歳代が最も希望していない傾向にあることが示された。

(6) 歯科保健事業の運営希望と社会活動状況、社会活動意識等の関連性

歯科保健事業の企画や運営にボランティアとして携わりたいと考えている人の現在の社会活動状況や社会活動に関する意識を分析した。

はじめに Pearson の相関係数を用いた分析を行った。分析結果を表 1 に示す。全対象者に関する分析では、歯科保健事業の運営希望の項目はすべての社会活動状況項目、意識項目と有意な関連性を示しており、特に歯科保健事業に参加したいという項目とは強い相関が認められた($r=0.682^{**}$)。性別に分析した結果からは男女間で大きな違い

は認められなかったが、「健康管理」の項目において、女性が無相関 ($r=0.090$) であるのに対して男性では正の相関関係 ($r=0.242^{**}$) を示し、歯科保健事業の企画・運営に携わりたいと思う人ほど「発病は自らの健康管理の結果である」と考える傾向が認められた。年齢階級別に分析した結果、20 歳代では歯科保健事業の運営希望の項目はボランティア活動に参加することは人生をより豊かにするという項目 ($r=0.444^{**}$)、歯科保健事業に参加したいという項目 ($r=0.700^{**}$) との間で関連性を有していた。30 歳代ではそれらの項目に加えて老人や障害者への援助ボランティア活動、歯磨きボランティア活動への参加状況、ボランティア活動の重要性の認識との間に関連性が認められた。40 歳代ではさらに関連する項目が増え、町内会やサークル PTA への参加状況、セルフケアの有効性の認識に関する項目 (2 項目) との間に正の相関が認められるとともに、ボランティア活動に参加するための時間調節に関する項目との間に負の相関が認められるようになった。50 歳代、60 歳代は 40 歳代とほぼ同じ傾向を示しており、70 歳代で関連する項目が少なくなっている。

ついで、対象者を歯科保健事業の企画・運営希望者と非希望者の 2 群に分け、その社会活動状況と社会活動に関する意識の差を分析した。運営希望者は「企画運営にボランティアとしてぜひ参加したい」、「企画運営にボランティアとして参加したい」と回答した 127 名 (男性: 62 名、女性: 64 名、不明: 1 名) とした。年齢階級別数は 20 歳代: 7 名、30 歳代: 17 名、40 歳代: 22 名、50 歳代: 28 名、60 歳代: 37 名、

70歳代：16名であった。運営希望者には性差・年齢階級差は認められなかった。運営希望者と非希望者の社会活動状況および社会活動意識の差の分析を行った結果、運営希望者は町内会、サークル、道路掃除、PTA、ボランティア、歯磨きボランティアの諸活動についてより肯定的な態度を有していることが認められた。社会活動に関する意識ではすべての項目に有意差が認められ、運営希望者はボランティア活動に参加することは自らのためにも有益であり、「発病は自らの健康管理と関係する」と考え、歯科保健事業に参加したいと強く思う傾向にあった。また、運営希望者はボランティア活動に参加するための時間の調整を難しいと感じていない傾向にあった。性別の分析では、男性ではすべての項目に有意差が認められたが、女性では、「PTA活動」への参加状況、「健康管理」の2項目に差が認められなかった。

年齢階級別の分析では、20歳代では歯科保健事業への参加希望の項目にのみ差が認められ、運営参加希望者は保健事業参加も希望していることが示された。30歳代に関する分析では「時間調整」の項目に差が認められ、運営を希望していない人は時間調整の難しさを感じていることが示された。また、20歳代と同様に歯科保健事業への参加希望の項目に差が認められた。40歳代になるとほとんどの項目に差が認められ、ボランティア活動に参加することは大事だという項目のみに差が認められず、運営希望者は社会活動に積極的で、社会意識も前向きであることが認められた。50歳代も40歳代と同様の傾向を示し、「健康管理」の意識にのみ差が認められなかった。60歳代で

は道路掃除、ボランティア、歯磨きボランティアの参加状況に差が認められた。また、意識に関する分析ではほとんどの項目に差が認められたが、「時間調節」、「健康管理」の2項目で差が認められず、退職年齢を過ぎている60歳代は時間調節の困難性が運営希望と関連していないことが示された。また、60歳代では運営を希望するか否かに関わらず全体的に発病は自らの健康管理と関連すると考えていることが認められた。70歳代では町内会活動を除くすべての活動に差が認められ、意識に関しては、「ボランティア活動に参加することは人生をより豊かにする」、「自分自身で気をつけることによって病気は予防できる」という項目に差が認められた。このことから、70歳代では町内会活動に参加することは日常的であり、その他の社会活動への参加は歯科保健事業の運営への参加と同様に特別なことであることが示された。また、70歳代という高齢期においても、ボランティア活動に対する意識やセルフケアの意識が高い人は歯科保健事業の運営に積極的であることが認められた。

(7) 歯科保健事業運営希望者の余暇の使い方

運営希望者の余暇の使い方を χ^2 検定によって分析した。その結果、「読書」($p=0.021$)、「社会活動」($p=0.006$)で有意差が認められた。また、統計学的有意差は認められなかったが、「スポーツ」($p=0.050$)に関しても関連性が推測された。このことから、歯科保健事業の企画・運営を希望している者は余暇活動として読書や社会活動、スポーツを行っていることが示された。

の事業活動であり、住民の主体的な参加

D. 結論

以上の分析結果から、岩手県 T 町において住民参加による地域保健活動を推進する担い手として期待されるのは、一般的な社会活動の参加経験が豊富で参加意欲も高い人であり、意識の面では「ボランティア活動に参加することは自らのためにも有益である」と考え、「発病は自らの健康管理と関係する」と考えている人であると推測された。また、そのような人は余暇には読書や社会活動、スポーツを行っていることが示された。年代別にみると、退職年齢を過ぎてボランティア活動に参加するための時間調節の困難性が低下した 60 歳代が「生きが

い」としてボランティア活動の場を考えている傾向にあることが示された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産の出願・登録状況

なし

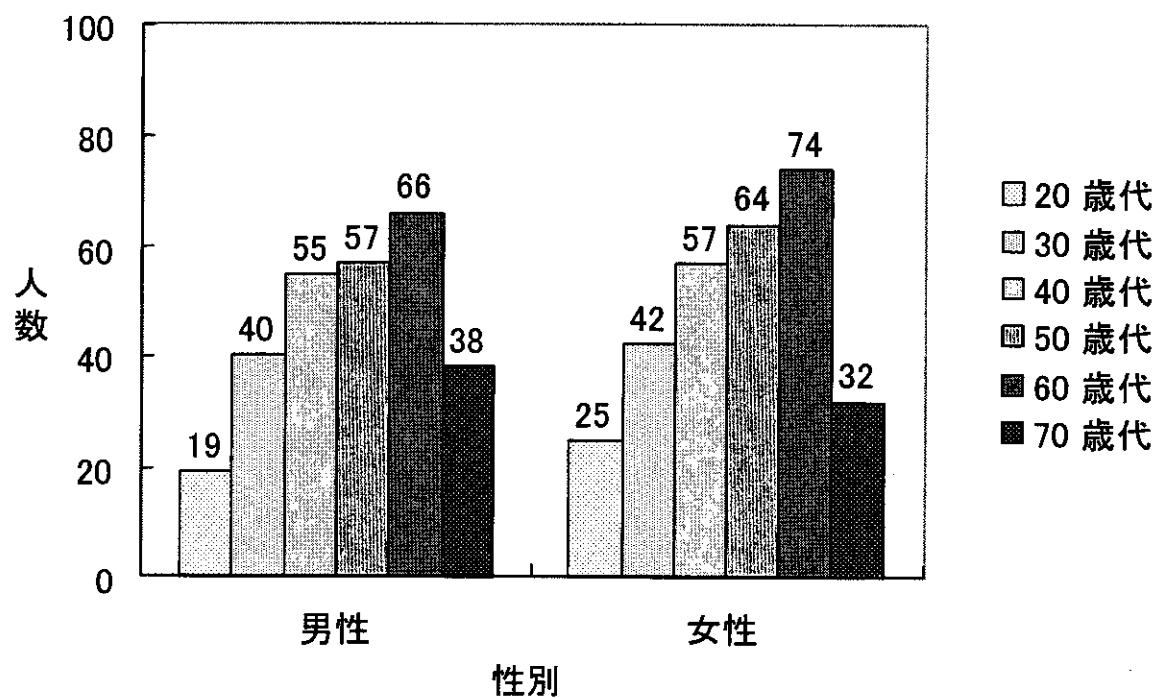
表1 歯科保健事業の企画・運営希望と社会活動状況、社会活動意識の関連性

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
人数	574	275	294	44	82	112	121	140	70
町内会	0.246**	0.171*	0.254**	0.270	0.229	0.280**	0.267*	0.163	0.176
サークル	0.330**	0.382**	0.238**	0.312	0.208	0.357**	0.322**	0.387**	0.490*
道路掃除	0.229**	0.216**	0.225**	0.288	0.223	0.167	0.222*	0.223	0.194
PTA	0.290**	0.332**	0.211**	0.283	0.147	0.274**	0.352**	0.374*	-0.191
ボランティア	0.393**	0.373**	0.404**	0.022	0.348**	0.358**	0.502**	0.423**	0.725**
歯磨きボランティア	0.569**	0.502**	0.570**	0.330	0.504**	0.479**	0.769**	0.602**	0.130
人生豊か	0.402**	0.395**	0.395**	0.444**	0.306**	0.453**	0.450**	0.316**	0.408**
ボランティア 量減	0.297**	0.371**	0.233**	0.008	0.381**	0.346**	0.453**	0.259**	0.321*
暇な人	-0.159**	-0.113	-0.180**	-0.180	-0.118	-0.176	0.284**	-0.083	-0.081
時間調整	-0.230**	0.224**	0.218**	0.057	-0.181	0.307**	0.354**	-0.108	-0.197
予防	0.167**	0.202**	0.152*	-0.133	-0.023	0.275**	0.113	0.198*	0.232
健康管理	0.152**	0.242**	0.090	-0.041	-0.022	0.375**	0.067	0.189*	0.140
事業参加	0.682**	0.724**	0.631**	0.700**	0.697**	0.738**	0.702**	0.609**	0.651**

Pearsonの相関分析

*: $p < 0.05$ 、**: $p < 0.01$

図1 対象者の性別年齢別分布



資料 1

- 1) ボランティア活動に参加することは人生をより豊かにする
- ① 全くその通りだ ② その通りだ ③ どちらともいえない、
④ そうだとは思わない ⑤ 全然そうだと思わない
- 2) ボランティア活動に参加することは大事なことだ
- ① 全くその通りだ ② その通りだ ③ どちらともいえない、
④ そうだとは思わない ⑤ 全然そうだと思わない
- 3) ボランティア活動は暇な人だけがやればよい
- ① 全くその通りだ ② その通りだ ③ どちらともいえない、
④ そうだとは思わない ⑤ 全然そうだと思わない
- 4) ボランティア活動に参加するために仕事や家事・育児の調整をするのは難しい
- ① 全くその通りだ ② その通りだ ③ どちらともいえない、
④ そうだとは思わない ⑤ 全然そうだと思わない
6. 病気にかかるということについて、次のような考え方をどう思いますか。あなたの考えに一番近い答えを一つだけ選択し、○印をつけて下さい。
- 1) 病気は自分自身で気をつけることによって予防することができる
- ① 全くその通りだ ② その通りだ ③ どちらともいえない、
④ そうだとは思わない ⑤ 全然そうだと思わない
- 2) 人が病気になるのは、それまでの生活の仕方や健康管理に問題があったからである
- ① 全くその通りだ ② その通りだ ③ どちらともいえない、
④ そうだとは思わない ⑤ 全然そうだと思わない
7. あなたは町が町民の歯の健康を守るために歯科保健事業を実施するとしたら、参加したいと思いますか。あなたの考えに一番近い答えを一つだけ選択し、○印をつけて下さい。
- ① ぜひ参加したいと思う
② 参加したいと思う
③ 参加したいと思うが事情があって参加できない
④ あまり参加したいとは思わない
⑤ 全く関心がない
8. あなたは町が歯科保健事業を実施するとしたら、ボランティアとして事業の企画や運営に携わりたいと思いますか。あなたの考えに一番近い答えを一つだけ選択し、○印をつけて下さい。
- ① ぜひ携わりたいと思う
② 携わりたいと思う
③ 携わりたいと思うが事情があって携れない
④ あまり携わりたいとは思わない
⑤ 全く関心がない

御協力ありがとうございました。

資料 1

社会活動についての意識調査

1. あなたの性別を教えてください。

- ① 男 ② 女

2. あなたの年齢を教えてください。

()歳

3. あなたは、普段の休日や余暇をどのように過ごしていますか。あてはまる項目すべてに○印をつけて下さい。

① 家で休息、ごろ寝、テレビ

② 読書や調べごと

③ 家族とのだんらん

④ 家事雑用

⑤ スポーツ

⑥ ドライブ

⑦ パチンコやマージャン

⑧ 趣味

⑨ 社会活動

⑩ 病院通い

⑪ 仕事でつぶれる

⑫ その他 ()

4. あなたが地域社会のために行っている活動についておうかがいします。次の各活動について、あなたの考えにもっとも近いものを下記の①から⑤の中から一つ選択し、番号を()の中に記入して下さい。

① 参加している・参加したことがある

② 参加したいと思う

③ 参加したいと思うが事情があって参加できない

④ あまり参加したいとは思わない

⑤ 全く関心がない

1) 町内会・自治会 ()

2) 趣味の講習会やグループ・サークル活動 ()

3) 道路や公園の草取りや清掃 ()

4) PTAの集まりや活動 ()

5) 老人や障害者の援助ボランティア ()

6) 歯磨きボランティア ()

5. あなたは、ボランティア活動についてどのようなご意見をおもちですか。次の項目について、あなたの考えに一番近い答えを一つだけ選択し、○印をつけて下さい。